



2026. 3. 20

冬から解き放され、一気に春めいてきました。道端にはいつもと変わりなく春の野草が咲いて、ウグイスの拙い鳴き声が聞かれます。しかし、この冬は雨が少なく、堂谷津の里一帯で乾燥による様々な影響が見られます。特にアカガエルは受難の冬（右下）でした。早春の日々変わる里山の色合いを楽しんでください。

春の堂谷津の里 花のにぎわいが広がります。



アオイスミレ



タチツボスミレ



ニリンソウ



シュンラン



コブシ



マルバスマシ



フデリンドウ



オオアラセイトウ



ウグイスカグラ



ニワトコ

<季節メモ> コガタルリハムシ

冬ごもりしていた虫たちが外に這い出てくる頃になりました。かわいいピロードツリアブが花の蜜を吸う様子はほっこりします。



ピロードツリアブ

この時期、何といたっても目につく虫は、青く輝くコガタルリハムシです。スイバやギシギシの葉が大好きで1枚の葉っぱに何匹もついて、なかよく食事をしています。メスのおなかは翅からはみ出すほどパンパンに膨れ上がっています。まもなく、葉裏に卵をびっしり産みつけます。生まれた黒い幼虫は、3週間程、食草のスイバやギシギシを食べたあと、土にもぐってさなぎになります。1週間ほどで羽化して成虫になると地上に出て葉っぱを食べて過ごします。夏・秋・冬は土の中で休眠し、来春、地上に現れます。9か月もの間、土の中で過ごすんですすごいですね。



成虫(メス)



卵



幼虫

写真・編集・書間

オタマジャクシになりました！

今冬は、乾燥が深刻化、アカガエルの産卵を心配しましたが、3月3日の雨で一挙に1224個の産卵がありました。しかし、喜びも束の間、田や水路の水を保つことができず、半分以上の卵塊が干上がってしまいました。それでも僅かな水たまりで卵塊は成長、オタマジャクシが元気に泳いでいます。

ニホンアカガエル



卵塊

